

清新の気

学校だより
No. 8
大津市立栗津中学校
平成31年2月 7日発行
全校生徒 506名

みなさんは学校の主人公！

校長 川辺 勉

今から48年前、小学校6年生であった私は、栗津中学生になると男子の髪が「丸坊主」にしないといけなくて聞いていたので「いやだなあ」と思っていました。ところが、2月の後半から3月の頃だったと思いますが、栗津中学校が男子の髪に関して「丸坊主」の廃止を決めたということを知りました。詳しいことはわかりませんでした。入学してから当時の生徒会が「丸坊主」の廃止を求めて臨時生徒総会を開いて議決し、学校に要望したということを知りました。その要望を受けてと思いますが、PTAと先生たちが協議を重ね、生徒会とも話し合いがもたれたそうです。その結果、私が入学するときには「丸坊主」はなくなったのです。この当時の2、3年生の先輩たちは「すごかった」と思います。部活での練習は、顧問の先生がおられました。多いところで100人くらいの部員がいたこともあり、1年生の練習・指導は、2、3年生が交替しながらみてくれていました。下校の時間になると、顧問の先生方とともに3年生の人たちが下校指導していました。生徒会組織に文化部と運動部のキャプテン会議がありそこで決めていたようでした。

卒業して8年後に私は先生として栗津中学校に赴任しました。様変わりした学校の姿に驚きました。髪の毛を染める生徒、暴力をふるう生徒、いじめや落書きする生徒がおり、評判の悪い学校になってしまっていました。

3年前に26年ぶりに本校に校長として赴任し、みなさんが主人公になる学校をめざしました。学習活動や部活動に励み、あいさつができるとても評判のよい学校に変わりました。生徒会から施設改善の要望も35年ぶりに出されました。実現できるよう市の方にも要望の内容は伝えました。また、この冬から女生徒のズボン着用も始めました。しかし、一部であれ他人にいやなことを言う人、いじめる人、陰で悪口を言う人等がいると聞き、30数年前の楽しくない学校に戻ってしまわないか心配することもあります。私は、かつての先輩の姿を思い出しながら、生徒のみなさんが「学校の主人公」として「自主・自律・自由の精神」のみならず学校を築いていってくれること、「やさしく・かしこく・たくましい」人に成長してくれることを願っています。学校創立70周年を迎える本年、「大津で一番の学校」といわれるよう、みなさんとともにつくっていききたいと思います。

栗津中学校創立70周年記念プレ事業

平成31年は、本校が栗津中学校として創立して70周年を迎えます。記念事業もこれから計画されていくところですが、それに先立ちプレ事業として下記の事業を行うことになりました。

日時：平成31年2月21日（木）

会場：大津市生涯学習センター 大ホール

講師：三遊亭わん丈氏

内容：講演と落語

講師について

膳所小・栗津中卒業生。20歳頃から7年間福岡を中心にバンドボーカルとして活動。2010年東京の寄席で落語を聞き、落語家を志す。2011年三遊亭円丈に入門、2016年5月二つ目に昇進。滋賀県出身者初の江戸落語家。

白熱！百人一首大会

1・2年生

1年生は1月18日（金）の6校時、2年生は1月23日（水）の6校時に、学年の百人一首大会を行いました。各学級での予選会の結果で、学級の枠を超えた新たなグループを作り、学年ごとに本戦を行いました。冬休みの宿題になっていたこともあり、上の句の最初の数文字だけでどんどんと取ってしまうグループもあり、大変盛り上がりしました。



各個人が取った枚数をクラスで平均し、優勝クラスを決定しました。

1年優勝2組 2年優勝4組

「ペットボトルの行方」

すでに紹介しましたが、昨年行われた滋賀県中学生広場では、本校を代表して3年生の初田歩夢さんが意見発表を行い、見事優良賞を受賞しました。裏面にその原稿を掲載しますので、ご一読ください。

1・2年生の保護者の皆様へ

■学年懇談会のお知らせ

2月15日（金）に授業参観および学年懇談会を実施します。また、同日に「平成31年度第1～5ブロック地区委員選出会」もあわせて行いますので、ご参加のほどよろしくお願ひします。

ペットボトルの行方

初田 歩夢

ペットボトルは私たちにとってとても身近なものです。おそらく、ペットボトルの商品を利用したことがない人はいないと思います。では、皆さんは、その処理方法を知っていらっしゃいますか。

私は、てっきりペットボトルの処理は、国内で行われていると思っていました。リサイクルできる環境に優しいイメージを皆さんも持っていると思います。もちろん私もそう思っていました。

しかし、先日、ニュースを見たとき、そのリサイクルの実情を知って、私はがく然としました。なんと国内で消費されたペットボトルは、中国に輸出され、そこでリサイクルされていたのです。中国の農村部の人たちの安い人件費によって、日本が出したペットボトルの処理が行われていました。しかも、ペットボトルのラベルはがしや洗浄にいたるまで、その作業は手作業でした。そこで出た排水は直接河川に流されるため、中国では河川や土壌の汚染も深刻な問題になっていると報道されていました。近年中国国内でもペットボトルが多量に消費されるようになったために、中国が廃品となったペットボトルを輸入しなくなったという報道でした。

それによって、ヨーロッパやアメリカ、そして日本などの国々はペットボトルの処理ができなくなって困っているということでした。

そもそも、なぜ私たちはペットボトルを使うのでしょうか。

ペットボトルの最大の特徴は、なんとといっても他の容器と比べてとても軽く、携帯しやすい点にあります。しかも、その軽さの割に大変丈夫なため、私のように水筒代わりにペットボトルを何回もリユースしている人も少なくないと思います。そして、もちろん、最終的にペットボトルがリサイクルできるということから、ペットボトルがエコなイメージな点も多く消費される理由の一つなのだと思います。国内では1993年にペットボトルのリサイクルが始まり、2000年には容器包装リサイクル法という法律もできたのだそうです。

しかし、そのリサイクルのほとんどが国内で行われてはいませんでした。しかも、リサイクルによって他の国の環境まで汚染されているという現実。ではいったい、この問題はどうすれば解決できるのでしょうか。

一番良い方法は、もちろん、これ以上ペットボトルを消費しないことだと思います。しかし、ペットボトルの利便性を考え、今、現在、これほど利用されているペットボトルをいきなりなくすことは現実的には困難だと思います。

しかし、他の容器に目を移すと、現在、ビンは洗ってリユースされています。ニュースの中で、ヨーロッパでは、既にペットボトルも同じようにリユースできる製品の開発に着手しているという報道もありました。新しいペットボトルが開発されることに、大いに期待したいと思います。また、たとえ費用がかかっても日本国内でペットボトルを処理していくという考えも大切だと思います。

一方、私たち自身も、利便性だけを追求して生活してきたことの見直しをする必要があるのではないのでしょうか。ペットボトルがなかったときには、当たり前のように使っていた水筒。水筒が使える場所では水筒を使うという、何年か前までは当たり前だった生活にもう一度、私たちは立ち返る必要があると思います。

現在、ペットボトルを含め、ゴミとして出されているもの、そのゴミの行方の最後までを考え、これからの環境について私は考えていきたい、そして皆さんにもそうしてもらいたいということを提案して、この発表を終わりたいと思います。